

平成 23 年度東部地区漁業士と行政との意見交換会

平成 23 年 11 月 4 日（金）に東伊豆町役場（漁民センター）の研修室で、東部地区漁業士と行政との意見交換会が開催されました。参加人数は東部地区漁業士 10 名、行政からは水産業局長を筆頭に 4 名、水産技術研究所伊豆分場 3 名の計 18 名でした。

今回の意見交換会は、はじめに水産資源課長からライフジャケットの着用と乗船時の見張り等の徹底等、漁船、遊漁船の安全対策について説明がありました。続いて、東部地区漁業士会から「伊豆の漁業者がどう生きのびるか」と題して自由討論形式で意見交換が行われました。稲取では「稲取キンメ」のブランド化を町や県と共にやっていること、伊東では漁獲物にタグを付けての販売をしているが、いかに漁獲から消費者に届くまでの管理をし、他と差別化することが重要であること、各地域で漁協、漁業者自ら水産物の販売強化に取り組んでいる状況が紹介されました。また、行政から、漁獲物は漁業者のものであり、いかに販路の選択肢を多く持つことができるかが大切であるという助言がありました。

平成 24 年 3 月で終了する軽油引取税の免税措置については、今後どうなるかといった心配の声がありましたが、漁船で使用する軽油、重油については期限ではありますが免税措置が継続することになり、一安心の感もあります。しかし、魚が獲れないと感じつつも、「高い燃料を使っているのだから、多くの魚を獲ろう」という悪循環になっているのではという意見もあり、特定の水産物に依存するだけでなく、他の有用な水産物を開拓する方法はないかという意見もありました。

意見交換等を通じて、ひとつでも多くの実践に結びつくことが出てきて欲しいと思いました。



写真 東部地区漁業士会会長の挨拶

（飯沼紀雄）